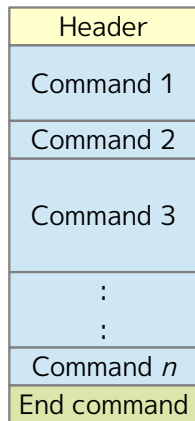
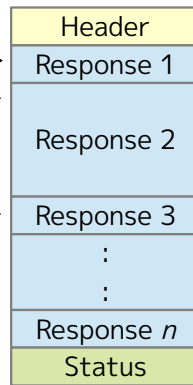


リクエストパケット



レスポンスパケット



各コマンドの
レスポンスが
順に格納され
る

- ・ パケットヘッダ（リクエスト、レスポンスで共通）

	+0	+1	+2	+3
+0	0x41	0x56	0x4D	0x4D

4バイトで FOURCC('A', 'V', 'M', 'M') を格納

ヘッダ不一致の場合はパケットを破棄し、レスポンスパケットを返さない

- ・ エンドコマンド（リクエストパケットのみ）

	+0	+1	+2	+3
+0	0x7F	0x00	0xFF	0xFF

リクエストパケットの終端を指示するコマンド

- ・ ステータス（レスポンスパケットのみ）

	+0	+1	+2	+3
+0	0xFF	STAT	0x00	0x00

レスポンスパケットのステータスをSTATフィールドに返す。

0 : RES_OK (正常終了)

1 : RES_UNDEFINED_CMD (未定義コマンド検出)

2 : RES_PACKET_INCORRECT (不正なパケット構成)

3 : RES_EOP_NOT_EXIST (パケット終端エラー)

・ シングルライトコマンド

	+0	+1	+2	+3
+0	0x40	0x00	0x00	SIZE
+4	ADDRESS			
+8	WD0	WD1	WD2	WD3

メモリバスへのデータ書き込みをリクエストする

SIZE : 書き込むデータ長を 1,2,4 のどれかで指定

ADDRESS : 書き込むメモリアドレスを指定。非アライメントアドレスは指定禁止

WD0～3 : 書き込むデータバイト

SIZE=1の場合、WD0は有効なデータバイト。

WD1～WD3はパディングデータとして0x00を格納。

SIZE=2の場合、WD0～1は有効なデータバイト。

WD2～WD3はパディングデータとして0x00を格納。

・ シングルライトレスポンス

	+0	+1	+2	+3
+0	0xC0	0x00	0x00	SIZE

SIZE : 書き込んだデータ長を返す

・ バーストライトコマンド

	+0	+1	+2	+3
+0	0x44	0x00	SIZE	
+4	ADDRESS			
+8~	WD0	WD1	...	
	...		WD n	0x00

メモリバスへのバースト書き込みをリクエストする

SIZE : 書き込むデータ長を 1～32768 で指定

ADDRESS : 開始メモリアドレスを指定

WD0～ n : 書き込むデータバイト

データ長が4の倍数でない場合、残りは0x00でパディングする。

・ バーストライトレスポンス

	+0	+1	+2	+3
+0	0xC4	0x00	SIZE	

SIZE : 書き込んだデータ長を返す

・ シングルリードコマンド

	+0	+1	+2	+3
+0	0x50	0x00	0x00	SIZE
+4	ADDRESS			

メモリバスからのデータ読み出しをリクエストする

SIZE : 読み出すデータ長を 1,2,4 のどれかで指定

ADDRESS : 読み出すメモリアドレスを指定。非アライメントアドレスは指定禁止

・ シングルリードレスポンス

	+0	+1	+2	+3
+0	0xD0	0x00	0x00	SIZE
+4	RD0	RD1	RD2	RD3

SIZE : 読み出したデータ長を返す

RD0～3 : 読み出したデータバイト

SIZE=1の場合、RD0が有効なデータバイト。

RD1～RD3はパディングデータ(通常0x00)が格納される。

SIZE=2の場合、RD0～1が有効なデータバイト。

RD2～RD3はパディングデータ(通常は0x00)が格納される。

・ バーストリードコマンド

	+0	+1	+2	+3
+0	0x54	0x00	SIZE	
+4	ADDRESS			

メモリバスからのバースト読み出しをリクエストする

SIZE : 読み出すデータ長を 1～32768 で指定

ADDRESS : 開始メモリアドレスを指定

・ バーストリードレスポンス

	+0	+1	+2	+3
+0	0xD4	0x00	SIZE	
+4～	RD0	RD1	・・・	
	・・・		RD n	0x00

SIZE : 読み出したデータ長を返す

RD0～ n : 読み出したデータバイト

データ長が4の倍数でない場合、残りは0x00でパディングされる。

・ FIFOライトコマンド

	+0	+1	+2	+3
+0	0x2	CH	0x00	SIZE
+4~	WD0	WD1	
		WD n	0x00

FIFOへのデータ書き込みをリクエストする

CH : 書き込むFIFO番号を 0~15 で指定 (コマンドバイトの下位4ビット)

SIZE : 書き込むデータ長を 1~32768 で指定

WD0~ n : 書き込むデータバイト

データ長が4の倍数でない場合、残りは0x00でパディングする。

・ FIFOライトレスポンス

	+0	+1	+2	+3
+0	0xA	CH	0x00	SIZE

CH : 書き込んだFIFO番号を返す

SIZE : 書き込んだデータ長を返す

指定のFIFOに空きがない場合、オーバーフロー分は捨てられる

・ FIFOリードコマンド

	+0	+1	+2	+3
+0	0x3	CH	0x00	SIZE

FIFOからのデータ読み出しをリクエストする

CH : 読み出すFIFO番号を 0~15 で指定 (コマンドバイトの下位4ビット)

SIZE : 読み出すデータ長を 1~32768 で指定

・ FIFOリードレスポンス

	+0	+1	+2	+3
+0	0xB	CH	0x00	SIZE
+4~	RD0	RD1	
		RD n	0x00

CH : 読み出したFIFO番号を返す

SIZE : 読み出したデータ長を返す

指定のFIFOに入っていた分のみが返される (0の場合もある)

RD0~ n : 読み出したデータバイト

データ長が4の倍数でない場合、残りは0x00でパディングされる。

SIZE=0 の場合はこのフィールドは存在しない。